

## 境港市校区審議会（第4回）議事録

日 時 平成28年8月10日（水）

場 所 境港市役所 第一会議室

出席者 委員 古都 好治、足立 ひと美、角 徹、山岡 睦美、肥後 功一、岡崎 茂  
白井 靖二、坂井 敏明、徳永 哲郎、岩本 和貴、山根 真樹、永井 高幸、  
竹藤 明美、神波 雄一、三瀬 ゆかり

事務局 局長（兼教育総務課長） 藤川 順一、学校教育課長 影本 純  
学校教育課長補佐 高濱禎彦、学校教育課長補佐 門脇 克美  
学校教育課主幹 石田 智文

傍聴者 3人

1 開 会 午後4時

2 会長あいさつ

境港市といえば、「学力」というくらい「学校の勢いがいい」というところまで行くには、どんな制度がいいのか、大所高所から将来的な見通しを持ちながら議論していただきたいと思います。事前に資料が送られていますので、まず、事務局から説明していただき、今日の議論に入っていきたいと思います。

3 概要説明

（事務局）初めに、資料の後半にあります参考資料について簡単に説明させていただきます。

前回の第3回の審議で、小中一貫校について意見が出たという経緯がありましたので、7月13日に教育委員長、教育長と私が広島県府中市の小中一貫校を視察してきました。視察した学校は、府中市立府中明郷学園と府中市立府中学園の2つです。最初に訪れた府中明郷学園は小規模な小中一貫校で、小学校は各学年1クラスです。中学校は、2クラスの学年もあったのですが、基本学年1クラスです。この学校の特徴は、小学校と中学校の既存の校舎の真ん中に新しい校舎を建てて、ジョイントしてつないでいる小中一貫校でした。コミュニティースクール制度も取り入れられていて、地域とともに小中一貫教育を進めていました。既存の校舎を使っているということもあるので、今ある校舎を有効に利用するという点では、一つのモデルであると思います。見取り図等も載せています。

二つ目の府中学園については、比較的大きな小中一貫校でした。小学校が各学年3クラス、中学校も各学年3クラスです。全校で、1000人近い児童生徒が通っている学校です。この学校の特徴は、小中一貫校として新しく新設された学校で、始めから小中一貫を行うために建てられた校舎です。費用も掛かっています。小学校の1・2年生では区切られた教室ですが、小学校3年生から6年生までは、廊下と教室に区切りのないオープンスペースの教室になっています。中学校になると、決まった教室がなくて国語教室とか社会科教室とかに出向いて行って授業を受ける形態になって

います。朝の会や終わりの会は、ホームベースという小さな部屋で行うようになって  
います。このスタイルは、一つ目の明郷学園も同じでした。小学校1年生から中学校  
3年生までの段階を経ながら、教室環境を少しずつ変えていくような、変化を持たせ  
た教室設計がされています。中央には四角い空間があり、1・2階が体育館、3階の  
屋上がプールとなっています。プールの床面が可動式で、小学生が使うときは床面が  
上がって水深が1m、中学生が使うときは床面が下がって1.2mになるようになって  
います。メディア棟といえる、コンピューター室と図書室が一体化されているスペ  
ースもあります。

2校に共通することは、職員室が小中学校一緒になっているということです。効果  
としては、不登校児童生徒の減少や学力の向上が第一だという説明を受けました。コ  
ミュニティースクールに取り組んでまだ2・3年ですが、「地域と協働していくとい  
うことに力を入れていきたい」と言っておられました。メリット・デメリットがある  
わけですが、「デメリットをメリットに変えていきたい」という校長先生の言葉が印  
象的で、「教育効果を高めていきたい」という熱意を非常に感じました。

それでは、方向性についてです。前回までの内容として、小中一貫校の方向性につ  
いてたくさん意見を出していただきました。現在の3つの中学校を、その校区の小  
学校と統合して、3つの小中一貫校あるいは義務教育学校を新設するという案が支持を  
得たと考えております。本日は、その方向性に照らして誠道小学校をどのようにして  
いくのかという、諮問の第二の柱についてご意見を出していただきたいと考えており  
ます。誠道小学校の現在のメリット・デメリットを考えながら、児童のためにどのよ  
うにしていったらよいか。小中一貫校ができるまでのスケジュールや地域の意向、校  
区の在り方などを考えながら、審議していただけたらと考えています。

それでは1枚めくっていただいて、今後の誠道小学校の在り方についての案を見て  
いただきたいと思います。3つの案を想定いたしました。誠道小学校は第二中学校の  
校区ですので、第二中学校に新校舎を併設して小中一貫校ができるまでの誠道小学校  
の在り方について考えてみました。まず1番目の案は、小中一貫校ができるまで現在  
のまま存続させるというものです。ただし、これは10年・20年というわけにはい  
かないと考えていますので、なるべく早く小中一貫校ができることが条件になるの  
ではないかと考えての事です。仮に、最短として6年後あたりが一つの目安になるの  
ではないかと考えます。これは、いろいろな説明や計画、基本設計や工期を考えると、  
少なくともこれくらいはかかると思います。これよりも長くかかるということも考え  
られますが、あまり長くかかってはいけないと思います。その場合、複式学級を解消  
する必要があるのであれば、市から500万円を拠出することで、県教委から教員を  
配置してもらうということが必要になります。この場合、児童数が少ないというこ  
とは解消されないで、少ないことによるデメリットは解消されない状態が続くこと  
になります。

2番目の案ですが、小中一貫校ができるまで余子小学校と統合するという考えた  
いう案です。来年度からということはないのですが、仮に平成29年度から統合した  
と考えると児童数の推移を資料に示しております。児童数が少ないことによるデメリ  
ットの解消を考えた場合、最も近い余子小学校との統合というものが考えられとい

とです。この場合、小中一貫校への併設までのスケジュールに関わらず、統合を進めることが可能なので、小中一貫校設置時期は選ぶことができるのではないかと思います。

3番目の案ですが、小中一貫校に統合するまで誠道小学校の校区を広げるといいます。校区割を変えるということです。仮に誠道小学校に夕日ヶ丘1丁目と防衛省の小篠津町宿舎(内官舎)の1年生から順次誠道小学校に入学させていくという形です。この場合のシミュレーションを資料2の下に数字をのせています。現実的ではないのですが、仮に来年度から夕日ヶ丘1丁目と内官舎の6歳から1歳までの子供たちを誠道小学校に順次入学させていくということになりますと、誠道小学校に入学する児童と合わせて平成29年度であれば30人の入学者があるということになります。前年度の卒業生が10人ですので、20人増えるということになります。随時、20人、28人、32人という具合に足されて増えていくということになります。逆に、夕日ヶ丘1丁目と内官舎の子どもたちが通っている中浜小学校の児童数は減っていくということになります。仮に平成29年度からそのようにしていくと、中浜小学校はマイナス27人、マイナス22人、マイナス28人と減っていく形になります。誠道小学校は増えていき、中浜小学校は減っていくことが推測されます。こういう形を始めて6年後あたりに、中浜小と誠道小の児童数が逆転することになります。このように児童数が逆転することになることを考えると、誠道小学校の児童数を増やすために校区を変更することは、慎重に検討する必要があるのではないかと思います。防衛省の関係もありますので、年度途中に移動があることも考えられます。これはあくまで、現在の子どもの数を基にした推計ですので、今の段階の一つのシミュレーションということです。この三つ以外の案もあるかもしれませんが、それも含めて誠道小学校の児童のためにどのようなやり方が一番いいのかという意見を出していただけたらと思います。

#### 4 審議

(会長) これまでの経緯や今日の中心的議題について、ご説明を頂きました。ここまでで、ご質問等はありませんか。今日の中心的議題である誠道小学校の今後のあり方について少しご意見を頂きたいと思います。あくまでも、「子どもたちの育ち」「今後の子どもたちの教育条件」ということについて、どうすればいいのかをお考えいただきたいと思います。

(会員) 誠道小学校の在り方について三つ案を頂いておりますけども、個人としては「現在のまま存続する」というのを希望します。誠道小が余子小と統合するという案がありますが、これはデメリットを解消するという点に焦点を合わせた考え方でだと思います。「児童数が少ないことによる問題に対して何とかしていこう」ということであると思うのですが、地域の人の声や保護者の方の意見はどうかを考えると、第2回の資料にあるように「もちろんデメリットはあるけども、だからといって何とかしてほしい」というのは実際は少ないです。保護者のアンケートでは「存続を希望する」「強く希望する」が多くて、「デメリットはあるけどメリットもあるし、なくなるのは嫌だ」という気持ちが強いのだと思います。もしも、余子小と何年後かに統合

すると決まったら、誠道小に入学する児童も当然少なくなると思われま。何年か先になくなるのがわかっているのだったら、例えば兄弟姉妹がいたら「下の子どもが入学する所に統合するのであれば、上の子どもと違う小学校は大変だから、上の子から校区外申請をして余子小に入学させる」といった考え方もできます。そういうことで減少するのではないかと思います。第二中学校区で小中一貫校ができる前に誠道小と余子小が統合したあと、その何年後かに余子小と中浜小が統合するとなると、誠道小からすると2段階ということになります。環境の変化に対応することや、地域にとっての対応も難しく、負担も大きいのではないかと思います。児童数は少なくとも、誠道小は校舎が新しいし、幸朋苑と交流をしていますし、少人数の良いところもあると思います。資料の6年後までを見ていくと、そんなに児童数が変わらない気がします。少なくなったから、「デメリットを解消するために統合する」というより、三つの小学校が一つの小中一貫校になるのであれば、「そこまではこのまま存続していけたらいいのではないか」と思います。

(会長) 一番基本的なベースラインである住民の方々のお気持ちと、今学校に通わせている保護者の方々、地区の方々のお気持ちをおっしゃって下さったと思います。ここを議論の出発点として話していただいたということは、非常に重要なことなので、大変感謝をしたいと思います。この観点から出発して、他にいかがでしょうか。

(会員) 現在のまま存続するというということについてですが、早くて6年後とのことでしたが、実際には何年後になるかわからないと思います。おそらく、防衛庁補助などのいろいろなことを考えると、6年後というのは少し難しいのではないかと思います。そうすると、デメリットは解消されないまま、子どもはどんどん減っていきます。2番目の案なのですが、地域との関わりというのが全くなくなることになります。誠道小学校がなくなるわけですから、地域との関わりもなくなります。3番目の誠道小学校の校区を広げるという案は、誠道小学校はそのまま存続し、なおかつ誠道小学校と地域との関わりも継続していくとなります。その上、子どもたちの数も増えていくこととなります。地域との関わりと子どもたちの数ということで行きますと、3番目の案が最もいい案なのではないかと思います。私も、この会議に出る前に「誠道小学校を語る会」に出たのですが、そこで思ったことは夕日ヶ丘1丁目が何とかならないかということでした。誠道小学校に来る校区割が何とかなれば、誠道小学校の児童数の減少はなくなるのではないかと考えていました。ですので、3番目の案であればすべての面がクリアできるのではないかと思います。「今まで上の子が中浜小学校に通っているけども、下の子は誠道小学校に」というのは難しいと思いますので、慎重に説明をしなくてはならないと思います。

(会員) 質問なのですが、3番目の案で誠道小学校の校区を広げると6年後には中浜小よりも誠道小の児童数の方が多くなる可能性があるということなのですが、これは何か不都合があるのですか、あえてこれが挙げてあるということは、多くなつてはいけないという何かがあるのですか。

(事務局) そういうわけではないです。今後は逆に中浜小学校の考えや地域の思いというものもあるかもしれないということで、こういうことが起こるという一つの資料として挙げさせていただきました。両方の立場で考えてもらえるのがいいと思い、挙げさ

せていただきました。別に、誠道小学校が多くなっていけないということではなく、形としては中浜小学校の児童数が減りますから、それも含めて考えていただければという意味で挙げております。

(会員) 何の不都合もないということですね。誠道小学校は300人を超えてスタートしたわけですから、キャパ的にも200人になってもいいですよ。

(会長) 少し地域の方々の意見を先に出していただきました。地域外からの観点もあると思いますので、そういった方の意見も出していただけたらと思います。もちろん、地域の方の意見もあっていいです。

(会員) 6年後を想定しながら数字を出していただいています。6年後がどうなるかはまだはっきりしないところです。しかし、6年後という仮定をしますと、その間「そんなに手を加えるということはいいのではないか」と思います。小中一貫校に進んでいく間に、校区割を変えるとか統合するとかしないで、事務局が言われたように「デメリットをメリットに変える」方法を考えるのがいいのではないかと思います。人数が少ないということで問題が起こるのであれば、別の小学校と交流をするとかしてメリットを作りながら、考えていけないだろうかと思えます。

(会員) 私は以前に内官舎に住んでいまして、そのあとに夕日ヶ丘1丁目に住んでいます。やはり、中浜小校区というのを前提で家を建てて、中浜小学校に通わせようと考えていました。校区が何かの事情で変わるというのは、子どもにとってとても負担だと思います。小中一貫校になるというだけでも、子どもにとっては環境が変わるという変化があります。そのことや地域とのつながりも考えると、現状を維持していくのが良いのではないかと思います。

(会長) 実際に暮らしていることですので、大事なことだと思います。小中一貫校に何年後に移行するという話がどれくらい現実味があって、具体的なロードマップになっていくのか。それが、前回の議論だと三つの中学校を中心にして三つの小中一貫校にしていくということでした。この構想でロードマップを作るということであれば、「現状は変える必要はないのではないか」というご意見が今日ありました。もし変えたとしたら、何が根拠なのかということだと思います。私たちの議論は基本的に、ある小学校を「もたせる」とか「もたせない」とかという議論をしてきたわけではありません。少人数があまり極端なことになると、今は不都合がなくても、今後はどうなるかわかりません。最初の方で出された資料では、小学校区の児童と6歳・5歳・4歳…0歳までの表が出ています。それをご覧いただくと、第三中学校区、第一中学校区のそれぞれ二つの小学校については、だいたい40人ちょっと超えて維持していく。第二中学校区の三つの小学校については、余子小と中浜小はほぼ40人前後で推移していきなっています。現状のままだと誠道小は極端に少ないこととなります。境港市の他の小学校とは非常に違う条件の中で子どもたちを育てることになることが見えている。そのことは「それでもいいじゃないか」「それが一つの特色だ」と皆さんがおっしゃれば、それはそれでいいと思います。そうではなくて、「少人数によるデメリットは放置しない方がいいのではないか」と考えることもできます。少人数にはデメリットばかりでなくメリットもあり、また、「不登校の数」とか「不応答の数」「中学校に行ってから厳しくなる」などの具体的な課題が必ずし

も少人数と結びついているわけではないです。ただ、あまりに違う者同士が中学で一緒になるという形になると一定のトラブルも予想できます。また、これから学習指導要領が変わってアクティブラーニングという手法が入ってきます。「違う他者の意見と交流しながら新しいものを作り出していくという教育をやりなさい」というものが学習指導要領の改定の中でいわれてきます。そういうことが実現できるための人数規模というものがあります。しかし、それを実現できない人数規模の学校をそのままにして、その小学校が他の小学校と交流することで実現できるのかということは考える責任があると思います。その問題の上で、そのことは「そのまま放置してもよい」と皆さんがおっしゃるのであれば、それば現場の方にお任せしましょうということになります。そのあたりを皆さんが、どう判断されるかということだと思います。第二中学校に誠道小、中浜小、余子小から来ているわけですが、現状のところはどうであるのか、第二中学校の校長先生からお話し願えないでしょうか。

(会員) 誠道小から来た子どもたちが、中浜小や余子小から来た子どもたちと一緒になったときに、きわめて存在感が薄くなるということは、今の段階ではないです。生徒会のリーダーとして引っ張っている子どももいますし、部活動の中でいい成績を残している子どもたちもいます。学級の中で、誠道小学校の存在が見えないということはありません。私も2年間しかいないので、全体像を把握しているわけではないと思いますが、この2年間で見るとはそう思います。その点においては、今までの子の例でみれば、心配はないと思います。ここから先は、どうかわかりません。アクティブラーニングをしていくときに、子どもたち同士でペア学習やグループ学習でいろんな議論を戦わせて行き、新たな知識を深化させていくのですが、そうなったときに小学校の時に経験してこない生徒は、中学校でそのような授業形態になったときに、なかなか乗ってこれないだろうと思います。小学校の段階で、そのような形態でたたき上げておかないと、アクティブラーニングの形態の中では薄くなっていくかもしれないと思っています。あまり、根拠のあるものではないので、申し訳ないです。

(会長) いえいえ、こちらの方から聞いたので、申し訳ありませんでした。今後の誠道小学校の人口の事を考えても、一桁が続きます。今生まれている3歳時・4歳児が13人・14人ですが、移動もあるでしょうが、基本的には二桁に届かない状態が続いていきます。その中で、新しい学習指導要領が始まるということでは、私もやや懸念を持っています。複式の良さはよく理解しているつもりですが、複式になったとすると先生方の指導力という点や先生方への負担が大きいことになります。市内の他の学校では、人口的な対応をしなくて良いのですが、この学校は新しい学習指導体制については一歩踏み込んだことをしないといけないし、子どもたちにもなるべく損をさせない配慮を一生懸命しなくてはならないことになります。

私の役割は、「あーやってみては」「こーやってみては」ですので、そのところをご理解いただきたい。一つの議論に陥るというまでに、いろんな時間をかけるというのを役割としていますので、ご理解をお願いします。

(副会長) 今日の席に座るまでに自分の考えを決めないといけないと思っていましたが、皆さんのご意見を聞いていくと、少し気持ちも揺らいでまいりました。まだ、気持ち

はまとまっていますが、個人としては小規模校の家族的な雰囲気の学校で、自分も勤めたいと思いました。私は能力が多岐にわたっていないので、「誠道小学校のようにいろんな能力が必要とされる学校の教員にはなれない」と思って来たところです。小規模校ならではの取り組みがあり、例えば全校児童が幸朋苑での七夕集会など、非常にいい取り組みだと思いながら、ホームページで見させていただきました。小規模校ならではの素晴らしい取り組みもなされているのですが、ここ数年誠道小学校を見てきて、保護者アンケートにもありましたが、少人数のデメリットの方を心配しています。児童の人間関係が固定化のことがアンケートに上がっていましたし、私もそのような場面をたびたび見ることもありました。複式学級も今年度見に行きましたが、2年生が4人で音楽室に向うのを見て、「4人で音楽か」という悲しい気持ちになって、複式学級の取組も難しいと思いました。多様な学習活動には制限があると思っています。なので、その現状に目をつぶって、現在のまま存続させるというのはいけないのではないかと思います。少しでも、望ましい教育環境を整えるには、校区を広げるか、余子小学校と統合するかを考えました。最初は3番目の案を見た時に、平成34年は3小学校がほとんど同じ人数になるので、良い案だと思いました。しかし、数日たってもう一度考えてみると、「そのあとはどうなるのか」と思いました。大規模の小中一貫校よりは、ある程度こじんまりとした小中一貫校が小回りが利いて、教育効果も上がると考えています。例えば、20年後の平成48年に古い校舎やプールの耐用年数が経過する頃に、小中一貫校になるとしたら中浜小学校の人数は大変なことになっているだろうと推測されます。そうすると、また同じような状況が生まれえることになり、校区を広げてもあまり適切ではないと思いました。そうすると、2番目の案の余子小学校との統合が適切なのかと思って、今日の場に望んできた次第です。

(会長) 皆さんだれも、きっぱり「これがいい」という考えは持っていないのではないのでしょうか。皆さんもいろんな思いの中で、「どれかといえばこれだ」という考えだと思えます。

(会員) 本日たまたま鳥取県のPTAの教育懇談会がありました。コミュニティースクール関係の協議会に参加してきましたが、その中で東部の方の少人数の学校の合併が決まっているという話を聞きました。その学校の人数は、今の誠道小学校より少ないくらいなのですが、その小学校ともう一つの300人くらいの小学校が一つの中学校に通うことになるそうです。その学校の会長さんに聞いたのですが、その学校が今の誠道小学校より少し多いくらいの児童数の時には、中学校に行った時の学力の差などの心配は保護者から出なかったらしいのです。いろんな要因はあると思うのですが、ここ2・3年で児童数が少なくなると、多い方の学校と比べると明らかに学力も違うし、中学校に行った時も生徒の発言や意欲に、違いが見えてくることでした。合併という話も進んではいるのですが、今ちょうど通っている児童がそのまま合併して本当に大丈夫なのかどうかという不安が出ているそうです。今の誠道小学校よりもう少し人数が少なくなってきた時に出てくる問題があるのではないかと思います。

(会長) 明確にどれが一番で二番で、という話が出ているわけではないですので、いろん

なご意見を出していただければと思います。新しい学習指導要領は2020年とされていますので、4年後です。それまでに先生方も研修をされていかれると思いますし、今年度中にこの学習指導要領の全貌が明らかになります。そこに向かって、教育の仕方についていろいろな研修をしていかななくてはなりません。その中で、子どもの多様な集団を形成することができる規模については、先生方にはどうしても物理的にクリアできません。そこはやはり課題があると、私としては思います。新しい学習指導要領に代わって、他の子どもたちは違うスタートラインに立ってくる。もし、そのことを行うに一定な物理的な困難があるのであれば、そこは変えてあげたいという気がします。それよりも地元の学校を存続させるということの方が必要で、それが「少人数でもデメリットはない」とおっしゃれば、そういう方向もあります。しかしそうなれば、教員の力量が特段に必要なし、学校間の連携や協力、合同学習のような事を最初から意識して組み立てなければならぬと思います。結果的に、中浜小学校などとの合同学習を進めなくては、それは無理だということになると思います。そういうことが当然予想されます

(会員) いろいろな意見を聞いて、私も迷いが大きくなっています。児童の数、複式というところが課題だということになっていますが、考えてみると学校というのは地域とともにないといけないと思います。境港の事をいろいろと調べさせてもらいましたが、公民館も各小学校区にきちんとあります。それこそ文科省は、これからは「地域とともにある学校づくりを進めよう」といっています。この前の意見の中で、小中一貫校は3中学校区で動いた方がいいという方向になりました。それを考えたときに、中学校区にある公民館、例えば第二中学校であれば3公民館ありますが、そういうコミュニティーを動かしながら小中一貫校を動かしていくことが大事なのではないかと思います。誠道小学校は2・3年生が複式学級なのですが、ほとんどの教科で複式を解消して学習を進めておられる。人数が少ないという話があったのですが、音楽は3・4年が合同で、または1・2年が合同で行うとかすると、多様な学習形態を行うことができます。これが、特色ある学習指導ということになるかもしれません。私も、小さな学校ばかり経験してきましたが、複式指導だからこそ異学年交流が出来て、みんなが主役になれる。40人学級の中では埋もれてしまう子がいるけれども、10人の子どもたちと教員との中では、落ちこぼれといわれるような子だったり、集団の中に埋もれてしまう子は育ちにくいのではないかと思います。あと3年して、今の3年生が6年生になれば、複式は解消されることになります。そのようなことも考えたら、あと6年先のことを考えたら、今の現状の中で動きながら、小中一貫校に向けて外堀をしっかりと、連携を強めていくことがいいのではないかと思います。

(会長) 一貫校になるから「今のままでもいいじゃないか」、一貫校になるから「早いうちに寄せて、学校の条件を同じにしておいた方がいいじゃないか」というどちらでも考えることができるということだと思います。

(会員) 平成18年度に3つの小学校が一つに統合して、3年後に町全体が一つに統合しました。その時は、保護者の皆さんや子どもたちも「小学校時代に2回も学校が変わるだ…」というプレッシャーがあったと思います。集合学習などの、新しい場に

入っていくという下準備をしっかりとしながらでも、1年間や2年間で「同じ仲間になるんだよ」なんてことも、なかなか言えないのかもしれないと思いました。

(会長) 今、コミュニティースクールという話も何回か出てきましたが、地域と学校が一体となって、「学校を核にした地域運営」または「地域の活性化の核としての学校」という考え方を文科省も示すようになりました。また、地域の方々を学校に取り入れてチーム学校という形で動いていくという構想が展開されています。その中で隠れて見えなくなっているのが、「地域という言葉が何だろう」ということです。小中一貫校という形で、例えば第二中学校区の三つの小学校の地域が一つになるということになれば、その三つの地域が今までの地域というものの意識を変えないと、小中一貫校はうまく機能しないのではないのでしょうか。それは、住んでいらっしゃる方が、今までの地域という枠を少し広げて考えて下さらないと、小中一貫校なりコミュニティースクールはうまくいかないということだと思います。三つの小学校を一つの小中一貫校に統合していくということで、それが何年後なのかという目標ができるのであれば、そこに向かってみんなの気持ちを一つにしていくということになってくると思います。その間には、「あまりごたごたしない方がいいのではないか」という考え方もできるということだと思います。そうであれば、小中一貫校という方針やロードマップを具体化していくということの方を最初にしていき、その中で誠道小学校という規模の小さな一つの学校を「このまま」という考え方もできるし、「先にどこかと一つに」という、どちらでも考えることができるということだと思います。3中学校区に小中一貫校を作ったとして、これからの10年間くらいの流れを見ると、1学年100人前後の規模で推移することになります。3学級規模の小中一貫校が三つできるというのは、これはすごくいい体制だと思います。新しい学習指導要領にもよく合っていると言えると思います。

(会長) 小中一貫校がいつ頃現実的に目指せるのかということで、皆さんの意見も変わってくると思います。3番目の案の校区の事を想像してみると、順次一定の地域の子どもたちを誠道小学校に入学させるということになると、兄弟姉妹のある家庭に対しては一定の配慮が必要だと思います。そこで、いろんな意見も出てきて、混乱もあるのではないかと想像します。2番目の案では、小中一貫校にするまでに余子小学校と統合する場合は、統合したら余子小学校になるということなのではないでしょうか。確かに、誠道小学校は余子小学校から分離してできた学校ですが、統合したら余子小学校になるのか、新たな小学校になると考えるのか。もしも、2番目の案を選択肢として考えるのであれば、このことも大きな問題になってくるのではないかと思います。

(会長) 三つの中学校区で一度に小中一貫校ができるのかを考えたときに、現在の校舎を利用するなどの様々な方法をとっても、そう簡単な額ではないということです。そうすると、どこかを先に立ち上げるということになるかもしれないということも考えなくてはならない。その場合、具体的な移行はどうするのかという問題も出てきます。これはこれで、ロードマップを考えていくことは、そう単純ではないかと思いません。

(会員) 私も資料を見た時は、2番目の案がいいのではないかとあって、この場にきたの

ですが、皆さんの意見を聞いていると、「そういう考え方もあるのだな」と思いました。6年後という話が決まっていたら、そちらに向けてコミュニティで話を進めることもできると思います。でも、「6年が伸びるよ」とか「10年かもしれない」という話になると、話が違ってくると思います。「まず、ここを小中一貫校にします」ということになれば、たぶん、もっと地域の力が出てくるのではないかと思います。ですので、私はこのままでいいと思い、1番目の案でいいのではないかなと思います。

(会長) 三つ中学校区をどこから一貫校を始めるかということになったときに、極端な言い方になって誤解を招くかもしれませんが、「誠道小学校があるので第二中学校区の小中一貫校を早める」という方向ではないかと思えます。少人数による複式学級の解消などを早く進めるために、第二中学校区の小中一貫校を進める。それまでに、誠道小学校を、他の小学校と今統合するよりも、小中一貫校ができるまではそのまま良いのではないかという議論だと思います。それが、いつまでなのかということが大事で、それが10年後ということになると、少し違う話になってくるといことだと思います。

(会員) 話しに出ている6年後というのは、行政的な事情だったりするのかもかもしれませんが、最短でどれくらいでできるものなののでしょうか。目安としてでも。

(会長) 私は、6年後というのはちょっと遅いという気がしていますが、待っても3年と思っています。新しい学習指導要領がスタートするのは、3年後です。今いる子どもたちの話も大事ですが、これから入ってくる子どもたちへの責任をとれるのかということを見ると、6年後10年後という話は長いと思います。それだけの時間があるのだったら、「うちの子が入るのだったら、この小学校はやめた」という話が出てくるかもしれません。そういうことについても、テンポ感が要求されるかもしれません。「小中一貫校ができるまで現状のまま存続させる」ということになれば、「いつまで」ということが必要になるし、一定程度のテンポ感は必要だと思います。そのことについて、事務局はどうお考えでしょうか。

(事務局) 少なくとも、3年後というのは難しいと思います。6年後というのも、早いか遅いかは分かりませんが、頑張っってその辺が最短になるのではないかと考えています。

(会長) そうすると、早くても6年という話になってきます。来年入学する子どもたちが、新しい学習指導要領がスタートするときには3年生になります。中学年に上がるまでの3年間は、例えば7人で過ごすこととなります。今いる子供たちは卒業していきます。今の議論は、今いる子供こともそうですが、これから入ってくる子どもたちの事をどう判断するかということだと思います。

(会員) 今のお話で6年というのが最短ということを見ると、先ほど言われていたように、計画次第では10年という可能性の方が高いと思った方がいいということでしょうか。

(事務局) 他県の状況を見ても、5年6年かかっているという状況ですので、これより短い期間というのは、現実的には難しいのではないかと考えています。

(会長) 建物の問題だけでなく、一定のステップが必要だと思いますので、簡単に「すぐに」というわけにはいかないということだと思います。そうすると、小中一貫校

というのが望ましいと考えたにせよ、6年以上先ということを見ると、非常に小さい市町村が「二つの学校を統合しましょう」という話と少し違った話になってくるとのことだと思います。

(会員) 2020年の新しい学習指導要領というのが、私にはよくわからないのですが、そういう教育の事が教育の専門の方から見て「誠道小学校の人数では、精一杯やっても無理だろう」とはっきり言われると、「仕方がないですね」と思いかも知れません。今、そういうことを抜きにして考えると、「存続させてほしい」と考えるのですが、子どもの教育の事を考えて「少人数では難しい」ということであれば、地域の方とかも納得しやすい理由になると思います。そうすると、「じゃあ、余子小に吸収合併させるのか」となると、仕方がないと思いつつも、少しがっかりすることになると思います。「三つの小学校が一緒になって小中一貫校になるので、その何年間は頑張りましょう」ということであれば、希望をもって前向きになれると思います。しかし、余子小学校に統合ということになると、少しがっかりします。

(会長) 学習指導要領がどう変わるかということでは、一貫ということがイメージになります。今までは、小学校は小学校で、中学校は中学校でということでしたが、「小中高を引き継いでいくような能力の育て方をしましょう」ということが一つの柱になっています。本当のことを言えば、小中だけでなく「幼稚園保育園から大学まで繋いでいきましょう」と言われています。学習内容は大きな変更はないだろうと考えられています。ただ、学習形態、学び方というのが大きく変わって、今までのように先生方が知識を教えて学んでいくという習得型ではなくて、子どもたち同士が調べたり協議したりディスカッションしたりして、アクティブラーニングと一般には言われていますけども、先生たちはその補助をし子どもたちが自分たちで学んでいくという形になっていきます。そうでないと、今後の世界や日本の状態というのは、知っている知識を応用するだけで何が解けるという時代ではなくて、知っているものを使って新しいものを作るという時代になってくるからです。そうすると、先生方が既存の知識を教えるということではなく、子どもたち自身が自分たちの意見を出し合って新しいものを学んだり、取りに行ったりする能力が望まれてきます。その時に、人数の問題がプラスに出るのかマイナスに出るのかは、即断はできませんが、多様性ということから、また様々な考え方があるとかを考えると、少人数というのはそれ以上小グループには分けることはできないので、グループ同士のディスカッションができないということにもなります。だから一定程度の人数というデメリットというのがあるだろうと思います。当然、メリットもあります。先生が子どもたち一人一人に存在感を持たせながら、アクティブに学習させていくことはできるわけですが、いずれにしろ教師の腕が問われることは間違いがないです。新しい学習指導要領になりアクティブラーニングが始まると少人数ではダメですよ、というわけではありません。ただ、一定の難しさはあるだろうということは理解していただきたいと思います。

(会員) たぶんいろいろな準備を授業の前にしていかななくてはならなくなると思います。教員が多いか少ないかというのは、ものすごく重要な部分だと思います。今の誠道小学校は少ない人数の先生方で、一日目一杯の事を頑張っておられることと思いま

す。それ以上の準備をしていかないと、協働的で主体的な学びを進めるのは難しいのではないかと思います。教員の数の保障というのが確実にないといけないのではないのでしょうか。

(会長) 多様性ということの中には、先生方の人数も含まれているということだと思います。そのことも、すごく大事なことだと思います。いろんな角度からご意見を出していただきたいと思います。

(会員) やや楽観的な意見になって申し訳ないのですが、私は10年待つのであれば3番目の案がいいと思います。200人規模で10年間いくというのが、子どもたちの教育からしても、学校の規模としても一番バランスがいいだろうと思います。ただ、どちら側の住民感情を大事にするかということがあります。夕日ヶ丘と小篠津の方々の思いもあるだろうけども、誠道の方々の思いもあります。学校規模としては、200人が3つある。それを10年待って、小中一貫校を作っていくのですが、人数からして第一中学校区を先に手を付けるということもできます。また、第三中学校区かもしれません。そういう考え方で行くと、誠道小学校を語る会でも「校区を広げるということは難しいことなので、できないです」という話だったのですが、もしもこれが可能な話なのであれば、学校規模は200人ずつというバランスのいい学校でいけると、それが10年で一貫校に入っていくというロードマップであれば、安定した形のマップではないかと思います。

(会長) 小中一貫校化を少し先に見通すのであれば、それまでの間制度を放置するのではなくて、三つの小学校のバランスをとれるというのが良いのではないかと思います。どの形にしろ、どちらの住民感情を取るかということについても、ご理解していただかなくてはなりません。いずれにしろ、住民の方々との協議をしていくことになっていきます。今のところ、1番目、2番目、3番目の案ともに出ているという状況です。

(会員) 今のご意見はとても良いと思います。小中一貫校までの設定が「短かったらこれがいいのではないか」「でも、長かったら別のやり方がある」という考え方はあると思います。

(会長) 今日は議論しにくい内容でしたが、たくさんのご意見を頂いてありがとうございました。小中一貫校というのが一つの理想として望ましいという議論をした後に、「3中学校区について小中一貫校を作っていくというのが良い方向である」という話になりました。ただ、そのことをどれくらいのロードマップでやっていくかということが、統廃合については一定の影響を及ぼすということでした。もし、10年というスパンで考えないといけないのであれば、「誠道小学校をこのまま残しておくというのはいかがなものか」という議論がありました。誠道小学校の条件を改めるとするときに、2番目の案のように一定の統合を行うという考えもできます。また、別な方法として誠道小学校区を広げるということも考えられる。1番目の案では一定のテンポ感が必要だろうということになります。これまでをまとめるとこのような感じになるかと思っています。次回が、一定のまとめになっていくことになると思います。事務局の方から最後にありますでしょうか。

(事務局) 事務局の方でもう少し整理しまして、次回お示ししたいと思います。

(会長) 次回の日程についてお願いいたします。

(事務局) 第2回の時に確認させていただきましたが、次回第5回は8月29日(月)16時からとしておりますが、よろしいでしょうか。それでは、資料配布を兼ねて案内を出させていたきたいと思えます。

(会長) それでは、本日の会は終わりとさせていただきます。ありがとうございました。

5 閉 会 午後5時20分